

源融公ご生誕一千二百年

当宮の主祭神であられます、**第五十二代**

嵯峨天皇さまの第十二皇子(一説には十七皇子。

諸説あり)であり、当宮を創建された源融(みなも

とのおとる)公がご生誕になられて、今年でちよ

うど一千二百年と考えられています。

考えられているというのは、実は源融公の生没年については史料によって記述がまちまちで、最も古い記録である平安時代の『日本紀略』によれば、寛平七年(八九五)八月二十五日に七十四歳(数え年)で薨去と記されている事から、それを基準に逆算しますと、本年がご生誕一千二百年の年まわりとなる訳です。

一千二百年前の弘仁十三年(八二二)に嵯峨天皇さまと、大原全子さまとの間にお生まれになられた源融公は、承和五年(八三八)、腹違いの兄弟である仁明天皇の養子となり親王として元服。同時に臣籍降下されたとみられ、源氏姓を賜り、「源融」となられました。嵯峨天皇さまの系譜からの源氏姓なので嵯峨源氏ともよばれ、全国の渡辺氏の祖でもあられます。承和十年(八四三)には、前年に崩御された御父嵯峨天皇さまの御追悼の為に**当宮を創建**。

その後も時運に乗り昇進を重ねられ、貞観十四年(八七二)には五十歳にして、左大臣として太政官の首班に立たれ、京都六条に構えられた河原院という邸宅にちなみ、河原院左大臣とも呼ばれました。他にも、百人一首の歌や、塩竈の藻塩焼きを模した話、ローヤルゼリーの話、仙人になり損ねた話、源氏物語の光源氏のモデルであるなど、平安時代全時代を通して話題の貴公子でした。

そんな源融公がご生誕になられた一千二百年前は、先月号にも書きました通り、当地、梅田に嵯峨天皇さまが行幸になられた年でもあり、その年にご誕生になられた源融公との関係を考えますと、源融公にとって、当地・梅田はご自身の出生に所縁深い地と考えておられたのかもしれない。当宮にとりまして今月はまさに源融公との所縁深きご縁に御祝詞申し上げる月と言えそうです。

コロナ禍第七波 御朱印について

本稿執筆時点において、新型コロナウイルスの変異株である「B.A.5」が猛威をふるっており、一日あたりの感染者数が二万人を超え、過去最悪の感染者数となっている事から、この八月に緊急事態宣言が発出された場合、御旅社での御朱印のお受け付けは全面休止とさせていただきます。また、蔓延防止等重点措置の発出の場合は、御朱印は直書きは中止し、書き渡し(書いたものをお渡し)のみのご対応とさせていただきます。

なお、状況次第では授与所そのものの受付中止も視野に入れております。正式には当宮ツイッターでご案内させていただきます。

当宮サイトQRコード変更について

当宮のサイトをスマホなどで閲覧する為のQRコードですが、提供機関の仕様が変更となった為、先月から変更させて頂いております。新しいQRコードは下記の通りです。なお、サイトの方も今後作り変えの予定です。



今月の暦

【御旅社授与所(茶屋町)御朱印平日受付日】
八月二十五日(木) 十三時〜十七時の予定

【節気】立秋(七日)：暦の上では秋となる。この日から残暑処暑(廿三日)：暑さの峠を過ぎる頃。台風特異日

【雑節】お盆(十三日〜十六日)：先祖供養。日本独特のもの

【大安】八月二日、八日、十四日、廿日、廿六日、卅日

【祝日】山の日(十一日)

【忌日】広島原爆忌(六日)、長崎原爆忌(九日)、終戦の日(十五日)

【朔望】上弦(五日)満月(十二日)、下弦(十九日)、朔月(廿七日)

【旬】

【野菜】シントウ、ナス、トウモロコシ、冬瓜、南瓜
【果物】ブドウ、イチジク、スイカ、メロンなど
【魚介類】ハモ、アユ、スルメイカ、キハダマグロ、アワビ
【その他】青葉狩り(登山)、海水浴、ひまわり、朝顔が見頃



筆者 網敷天神社 補宜(御旅社神主)

白江 秀知